



山口昭一氏は長年にわたり免震構造の健全な普及・推進に尽力され、また、日本免震構造協会の活動と発展に貢献されました。その功績は極めて顕著であり、ここに、功労賞を贈ることになりました。

## 主な経歴

1981年に我が国で初めての免震構造の設計を手がけ日本建築学会免震構造小委員会を経て、その後免震構造協会設立の活動を開始。

1992年（平成04）に（仮称）免震協会設立の提案書の作成と協会設立準備会を開催するとともに、事務局を氏の主宰する東京建築研究所に設置され、1993年（平成05）6月17日、日本免震構造協会設立総会にいたり、初代副会長に就任されました。そして、1997年（平成09）に法人化の申請を行いましたが、1999年（平成11）4月1日に法人設立許可となり、その後2000年（平成12）6月から、第三代会長となりました。

## 主な功績

氏が免震構造の設計に携わり関与された建物はこれまでに60棟にも及びます。

写真1が氏が設計された建物で日本の免震建物第2号の沢田美喜国際福祉事業記念キリシタン資料館、写真2は免震構造病院の魁けとなった稲城市立病院、写真3は8棟全てが免震構造のユニハイム山崎のマンションであります。建設後地震に遭遇し、兵庫県南部地震時に大いに免震効果を発揮した神戸市の西日本貯金センターを始め、その後の地震でそれぞれ、仙台市の大木青葉ビル、広島の高島農協ビル、青森市のヤマウ鳥谷部ビル、新潟市のエクセリア駅南等がいずれも免震効果を発揮しています。

協会の創設期には事務局長も兼任され、健全な免震普及のため全国的な臨時講習会「免震構造入門」を東京、札幌、仙台、大阪、名古屋、福岡で開催し、併せて常設講習会「免震構造設計の実際」を事務局で継続的に実施しました。氏の免震構造の設計概念はこれらの講習会で

示されこれから免震構造の設計を始めようとする技術者の糧となりました。氏は「会誌」発行と「免震フォーラム」開催を提案され今日に至っています。

協会の設計基準や建築基準法の改正にも力を注がれ特に2000年の「免震建築物と免震部材に関する建設省告示」の発行や、技術者の資格制度にも尽力され「免震部建築施工管理技術者」や「免震建物点検技術者」の養成がなされました。

また、強い地震を受けた米国の免震構造視察の企画をされ、渡米し「米国に於ける免震建物の現況構造調査報告」を発行し、その後の海外調査の先鞭をつけられました。

創立10周年を記念して、「記念フォーラム」・「国際アイデアコンペ」・「国際シンポジウム」など多岐にわたる事業に関与されこれらを強力に推進されました。



写真1 沢田美喜国際福祉事業記念キリシタン資料館



写真2 稲城市立病院



写真3 ユニハイム山崎